

原子状水素(水素水) その1

水素は、最も軽い元素で周期表でも最初の元素です。そして、この宇宙で最初にできた物質であり、種々の元素の「素」と言われています。この地上では、水の中に溶け込んでいるために分解さえできれば無尽蔵の資源です。

今、地球温暖化を始め大気汚染が問題になっていますが、この最大の原因が石油、石炭、天然ガスなど化石燃料です。しかも、生産国と消費国のトラブルや格差社会を生み出しています。そして、この化石燃料の埋蔵量には限界があり、石油は後40年で枯渇するのです。

一方、水素エネルギーは化石燃料のような二酸化炭素の排泄は無くして廃棄物は水(H₂O)ですから“クリーンエネルギー”です。ただし、分子状の水から原子状水素を抽出するために電気分解する必要があり、そのエネルギーを化石燃料からでは意味が半減します。そこで再生燃料エネルギーである太陽光、風力、地熱、小水力、バイオマスを使ったものでなければなりません。

エネルギー問題の次に、各国が抱えている悩みは医療費高騰です。これまで薬や手術、放射線量などの治療では医療費は抑えられていません。食事や喫煙、運動など生活面での予防ですが、さらに一步踏み込んでみると活性酸素に到達します。

ガンや心臓病、認知症、糖尿病など種々の疾患の9割が活性酸素によると言われています。

この毒素に抗する抗酸化物質として体内ではSOD(スーパー・オキシド・ディスターゼ)やカタラーゼなどの酵素が生成されます。しかし、40歳頃より生成が減少し、それに伴い生活習慣病が増えています(図)。

体外的にはビタミンC(柑橘類)などがありますが、分子量が大きく、細胞の核内や血液脳関門を通過できませんからガンとか認知症に効果がありません。さらに、過剰な投与でむしろ悪性の活性酸素として働くことがあるということです。

それに対し、**原子状水素(H⁺)**は容易に血液脳関門や核内に入り込み**活性化酸素と反応して無毒化**します。しかも、**悪玉活性酸素(ヒドロキシラジカル)**にのみ**作用する優れものです**(太田茂男 2007)。これで、病気の進行を食い止め、新たな病気にならない体にしていけるのです。

因みに、善玉活性酸素は、①細菌やウイルスを殺菌・除去し、②神経伝達や血管を新生し、③免疫向上に働き、④精子形成に働く作用があります。

2007年以降、動物・臨床実験が毎年如く各大学や病院で行われ、皮膚疾患始め歯周病、糖尿病、肝炎、脳虚血障害、パーキンソン病などで効果を認めています。

当病院でも水素水浴器(マルーン)や飲水(トリムイオン)、足浴を導入しております。個人的に便秘や不眠、易疲労、糞便や放屁の臭みの改善を認めています。

